

静岡県におけるツキノワグマの個体数推計（令和6年度）

本調査は静岡県の南アルプス地域個体群および富士地域個体群の生息状況を明らかにすることを目的に、カメラトラップを用いて個体識別情報を取得し、空間明示型標識再捕獲モデルを適用して調査地における個体数を推定した。さらに、目撃情報や自動撮影カメラの集計データを基に県全域の生息密度を推定した。

1 カメラトラップ調査

南アルプス地域個体群および富士地域個体群の生息密度を推定することを目的として、自動撮影カメラを用いたカメラトラップ調査を実施した。撮影された画像データを集計し、斑紋の形状に基づいて個体識別を行った。カメラトラップは1基あたり1km²を目安に、南アルプス地域および富士地域にそれぞれ20基を設置し、設置期間は3か月以上実施した。（調査期間：令和6年6月から10月）

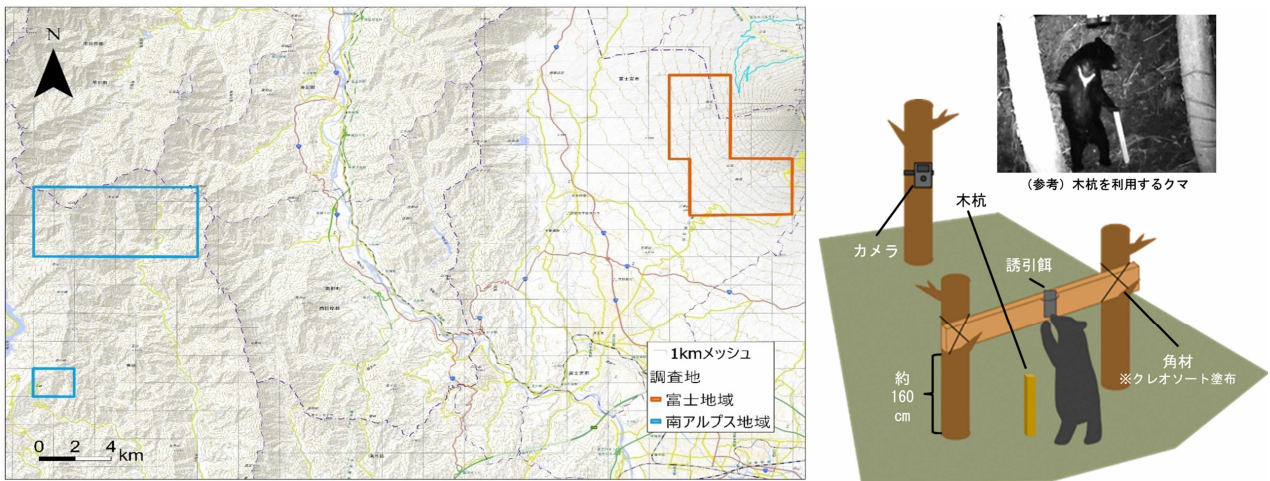


図 調査地の位置関係（左）と設置したカメラトラップの概要（右）

2 個体数推定

調査地におけるクマの生息密度は、空間明示型標識再捕獲法（Spatially Explicit Capture-Recapture : SCR モデル）を用いて推定した。また、環境要因の影響やクマの出没件数を考慮したうえで、調査地における推定生息密度を全域へと外挿し、全県におけるクマの生息頭数を推定した。

モデル	最大生息密度	環境要因	個体群	平均	標準偏差	中央値	95%信用区間
+/+	有	有	全域	547.8	90.9	543	(386 - 738)
			富士	103.0	19.9	102	(68 - 146)
			南アルプス	444.8	79.8	441	(301 - 611)

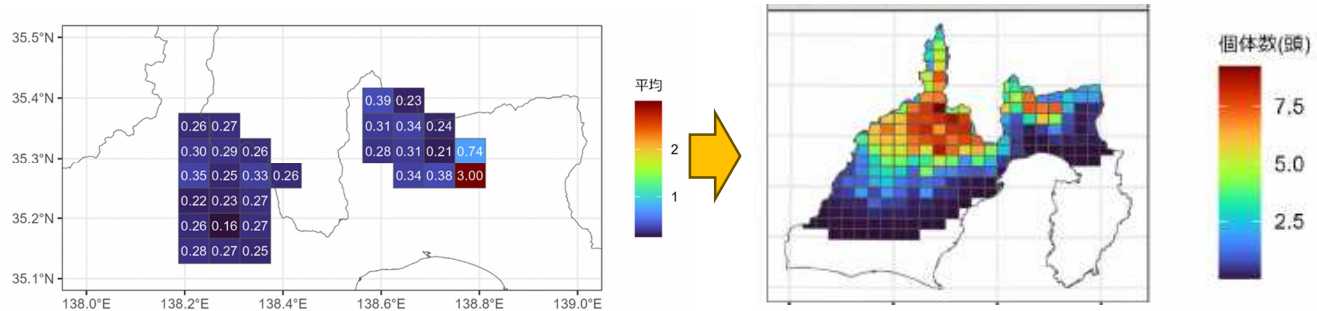
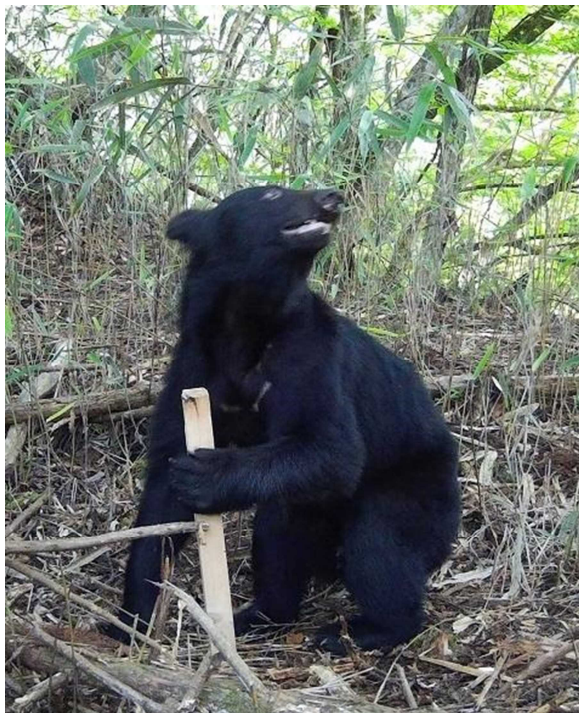
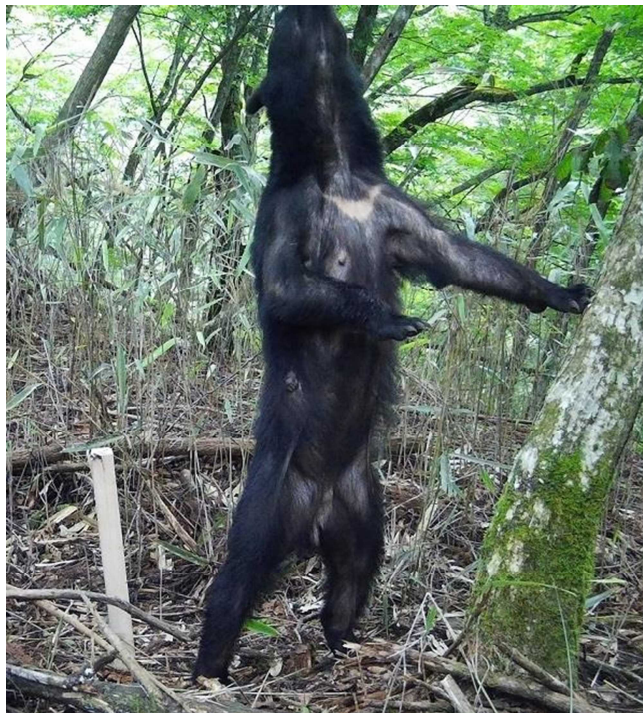


図 調査地における推定生息密度（左）と全県における推定個体数（右）

参考：カメラトラップ調査で撮影されたツキノワグマ

南アルプス地域



富土地域

